

日本人の誇り 「日本人の覚醒と奮起を期待したい」

藤原正彦 文芸春秋社

「個人より公、金より徳、競争より和」を重んじる日本国民の精神性は文明史上で世界に冠たる尊いものだった、しかし戦後日本はその自信を何故に失ったのか？幕末の開国から昭和の敗戦に至る歴史を徹底的に検証し困難の時代を生きる日本人に誇りと自信を与える現代人必読の書です。

第1章 政治もモラルも何故崩壊したのか

- 👉 危機に立つ日本～今の日本は一応の平和と繁栄の中にいるのにどうして大多数の日本人が全面的ピリ貧の真ただ中にいると感じているのでしょうか
- 👉 対中外交は何故弱腰なのか～日本は今、自国を自分の力で守ろうとせず安保条約のまやかしくも気づかぬまま気付いてもそれを正そうとせず守られているという幻想の中で安眠しています。
- 👉 アメリカの内政干渉を拒めない、いつ暴落するか分からない米国債を買わされ続け既に世界1・2位を争う保有額「年次改革要望書」等という露骨な内政干渉迄拒めずゆうちょ簡保の340兆円を米国に差し出し米国保険会社の日本進出を援護する為に行われたような郵政民有化、世界で最も安定していた日本の雇用を壊した労働者派遣法を改正、世界一と認められていた医療システムを崩壊させた医療改革、外資の日本企業買収を容易にするための三角合併解禁等・・・
かつての日英同盟は日本軍が頼りになったから結ばれた日英同盟の如く対等克堅固な日米同盟があつてこそ初めて中国の脅しにもビクともせず北朝鮮の拉致日本人を他国に頼らず奪還できる国家が出来上がるのです。
- 👉 劣化する政治家の質～期待を持ってそうもない政治家が「政治主導」等と言って官叩きをしているトップエリートたる官僚の知識、経験、見識を利用しなくてよいほど我が国は人材の余裕はありません、十分注意しながら官僚を知恵袋として使わなくてはならない。
- 👉 少子化という歪み～人口問題研究所は生涯未婚率を算出、現在30歳の人だと23%、20才の女性だと40%と予測している。
- 👉 大人から子供まで低下するモラル～何世紀にもわたり世界で図抜けた治安の良さもかろうじてトップというところまで落ちてきた、子供たちのモラルも崩れ、学力は3世紀半恐らく世界一だったのが10年ほど前から世界で最も勉強しない子供とさえ言われています。
- 👉 しつけも勉強もできない～政治・経済の崩壊から始まりモラル・教育・家族・社会崩壊と日本は全面的な崩壊に瀕しています、子供を傷つけてはいけないというのが社会のコンセンサスとなって厳しい躰も勉強も出来なくなっている。
- 👉 真・善・美は同一のもの～基軸を変えることで諸困難を一気に解決するというのが最も科学的なばかりか妥当でもあり、そして最も美しいものです。
- 👉 根本的な解決こそ美しい～部屋を綺麗に掃除しても解決にはなりません、二度と散らからないような仕組みにするのが根本的な解決になります。

第2章 素晴らしい日本文明

- 👉 世界7大文明の一翼を担う堂々たる日本文明が完成した
日本文明は日本だけのもので1万年も前からあつた土着の文明に独自の発達を遂げた。聖徳太子の「和を以て尊しとなす」がそのまま実行されたのです。
- 👉 成熟した江戸末期～多くの西欧人が日本を訪れ「個人が共同体の犠牲になる日本で

各自が全く幸福で満足しているように見えることは驚くべき事実である」と。

👉「貧乏人は存在するが貧困は存在しない、しかし幸せそうだ」多くの欧米人の観察が共通していて、インドのデカン大学の学長だった 57 才の詩人は「地上で天国あるいは極楽に最も近づいている国だ、景色・美術・性質は美しく、魅力的な態度・礼儀正しさ・・・」「人生を生き甲斐あらしめるほとんどすべての事においてあらゆる他国より一段高い」と。

👉幸福・満足・正直～封建大名による圧政のもと「人々が貧しいながらも幸せそうにしていた」と多くの外国人が言う

👉「近隣諸国条項」という難問～当時の宮澤喜一官房長官が「今後の教科書検定は近隣諸国の感情に配慮する」と、発表し世界のどこにもない奇想天外な基準を切っ掛けに日本は度々中国・韓国・北朝鮮に「歴史認識」を問われ日本が謝罪し外交的優位に立てる事をこの時に学習し使われてその後 30 年近くも、この条項が存在するという事実は国民が違和感を持たない深刻な問題だ。

第3章 祖国への誇り

👉自国のために戦うのか？～世界数十か国が参加する「世界価値観調査」では 18 才以上の男女をサンプル、2000 年のデータでは日本人は「自国を誇りに思う」で世界最低に近い「もし戦争が起こったら国の為には戦うか？」では「ハイ」が 15%と凶抜けて最低が現実だ、韓国 74%中国 90%

👉戦後日本国の生存を握るものは？～日本を占領した米国の唯一無二の目標は「日本が二度と米国に刃向かわないようにする」事だった、米国は他国の憲法を自分達が勝手に作るというハーグ条約違反、それ以上に恐るべき不遜をひた隠しにしていた第 9 条「陸・海・空軍その他の戦力はこれを保持しない、国の交戦権はこれを認めない」によって、この時点から日本は米国の属国となる事がほぼ決定していた。

👉天皇・漢字・教育勅語で国民の求心力と解体をもくろみ、日本の文化を弱体化し、愚民化した。

👉「罪意識扶植計画」とは何か～米国が日本に与えた致命傷は「新聞・雑誌・映画などに対する厳しい言論統制」でした、人道を掲げる米国にとって原爆投下は申し開きのできない悪夢中の悪夢 1999 年 AP 通信社は世界の報道機関 71 社にアンケートを求め 20 世紀の 10 大ニュースを選んだが、なんと第 1 位は「広島・長崎への原爆投下」でした。

👉1 千万人を救う為に 20 万人を犠牲に・・・徹底抗戦による犠牲者が米軍だけで百万人、日米で合わせて 1 千万人にもなる本土上陸作戦を避けるために仕方がないというものです。

アインシュタイン始め科学者アイゼンハワー将軍さえ反対したがトルーマンやバーアンズ国務長官は原爆投下の威力実施および終戦後のソ連との覇権争いを念頭に投下した。

👉宣伝による洗脳が始まった～日本国政府は条降伏、軍隊は無条件降伏というのが正しい回答で全て無条件降伏のドイツとは全く違います。にもかかわらず米国はポツダム宣言を踏みにじって、あたかも無条件降伏したかの如く振舞った。

👉検閲によるメディア統制～洗脳による壮大な戦略は日本人などとても思いつかない。

👉公職追放は 25 万人以上～罪意識扶植計画に協力的でない人は公職追放。

👉「国家自己崩壊システム」～GHQ が種をまき、日教組が大きく育て、今もなお機能している。
～失われた日本人としての誇り～

👉原爆投下への正当化～米国自らが作り上げた日本国憲法第 21 条には「集会・結社・言論・出版の自由」のほか「検閲の禁止」迄あるのに米国は自由な中でも飛びきり大切な言論の自由を奪う言語に絶する暴挙です。原爆二つは勿論の事 1945 年に実施された無差別爆撃は一般の老若男女 55 万人（東京新聞知らべ）の生命が奪われたが東京裁判では取り上げられず。

死者 1 万 1800 人（中国側発表）の日本軍による重慶爆撃の方は厳しく弾劾された。

日本政府は日本焦土作戦を指導したカーティス・ルメイ司令官にはなんと勲1等を与えた。

👉 20世紀に起きた大多数の戦争はハーグ条約が生きているにも関わらず宣戦布告なしだった。

同じ敗戦国ドイツは憲法や教育基本法の押し付けを拒否した。

👉 東京裁判というまやかし～第二次世界大戦後に於けるドイツの戦争犯罪を裁いたニュールンベルグ裁判と並び東京裁判は人類史の汚点というべき「裁判」なのです、一言でいうと「戦勝国による敗戦国への復讐劇」に他なりません。

👉 正当性を欠く裁判ブレイクニー弁護人の動議「広島・長崎への原爆投下という空前の残虐を犯した国の人間にこの法廷の被告を“人道に対する罪”で裁く資格があるのか」も詭弁により退けられた。1940年にソ連がポーランド軍の将校・上級官吏・学者・ジャーナリスト・聖職者などのインテリ階層4400名をカインの森で銃殺した事件はこれをドイツ軍が1943年に発見し世界に公表したがソ連はなんとニュールンベルグ裁判で最重要戦争犯罪としてドイツを告発、イギリスはソ連によるものと知っていた、米国大統領のルーズベルトも調査し「ソ連の仕業」と知り公表を禁止、この事実が明らかになったのはソ連が1990年に潰れゴルバチョフがスターリンの虐殺命令によるものだと認めたからでした。

第4章 対中戦争の真実

👉 南京大虐殺の不思議～虐殺を示す第一次資料は何一つもない、日本軍が入城した12月13日から翌年の2月9日までに国際委員会は日米英独の大使館に61通の文書を提出しておりそこには殺人49件、傷害44件、強姦361件等ありますが大虐殺と呼べるものはありません。

中国代表は日本非難の大演説の中でほんの少しだけ触れ英紙2紙によると南京で日本軍に虐殺された中国人市民の数は2万人辱めを受けた女性は数千人と見積もられている。

👉 東京裁判で再登場～南京戦後8年半もたった1946年に証人となった中国人は次々に大虐殺を「証言」地獄さながらの描写があり証人宣誓も求められず証拠検証もされず言いたい放題、殺害者30万人（南京の人口20万人）金陵大学（後の南京大学）のベイツ教授などと数人の欧米人も証人として出頭し事件時に国際委員会のメンバーで事件時に南京にいて同大学のスマイス教授と共に1938年3月から4月にかけて多数の学生を動員して南京市民の被害状況を調査、同教授は社会学が専門でこの種調査は慣れていて日本兵による暴行被害者は殺された者2400人、負傷したもの3050人ベイツ教授はこの調査を知っていながら大いに水増しして城内で1万2千人の男女及び子供が殺された、と述べた、当時の常識では取りたてて課題となるような数字ではなく、だからこそ8年間も問題にされなかった。

👉 証拠は捏造されていた！？～東京裁判での結論は虐殺30万人という中国人証人と、その10分の一程という欧米人の共に根拠のない数字の平均という妙なことにした、2002年台湾の国民党資料館に保管されていた「極機密」を発掘、事件の起きた1937年12月からその後10月間日本軍による南京での不法殺害は一度も報告されていなかった、にも拘らず中国は日本の対中低姿勢を引き出すという外交上の大きな成果を挙げた。

👉 大虐殺は歴史的事実ではなく政治的事実～東京裁判の中で「人道に対する罪」としてドイツのアウシュヴィッツ大虐殺に対する日本の「南京大虐殺」が欲しかった、今一つは悪夢中の悪夢である原爆投下2発を相殺する為に20万人とほぼ同数の被害者が欲しかったと思われる。

👉 復讐劇と化した訴訟指揮～広田弘毅首相のスミス弁護士はウエブ裁判長の偏った訴訟指揮を「不当な干渉」と述べ、大島浩駐独大使の弁護士カニンガム弁護士は「東京裁判は連合国による報復と宣伝に過ぎない」と発言、二人ともウエブ裁判長から除籍された、日本への憎悪でこの裁判長はやりたい放題。

- 👉 「八紘一宇」は世界征服にあらず日本が中心になって東アジアの白人植民地を解放しそこに平和と繁栄を築く日本人の気概のほとばしりで日本以外そんな気概のある国は皆無だ。
- 👉 「共同謀議論」のムリ～日本は一貫してアジアを侵略し満州事変・日中戦争・太平洋戦争を引き起こした、それを共同謀議として罪を問われたのが A 級戦犯と言われる 28 人でした。ドイツではヒットラーが 1945 年迄の 12 年間一貫して首相、日本では 17 年間に 16 回も内閣が変わっている、このことは裁判でカルカッタ大学学長のバール判事が言及共同謀議を全面否定しています。その上、陸軍と海軍は明治のころから喧嘩ばかり 1941 年になっても仮想敵国は陸軍はソ連、海軍は米国、陸軍内部でさえ統制派の中心人物である永田鉄山軍務局長（永田の前に永田なし永田の後に永田なし、もし永田ありせば太平洋戦争は起きなかった、と言われ陸軍きってのエリートだった）が皇道派の相沢中佐に惨殺された、残念ながら日本人には大局的視野に立って長期戦略を組み立てるといふ能力はあまりありません。
- 👉 「オレンジ計画」とは何か～米国は日露戦争が終わったあたりからルーズベルト大統領の指示対日戦争計画「オレンジ計画」を練り始めた「米国は独力で日本を満州から撤退させるべく海上封鎖することで息の根を止める」という趣旨、第二次大戦で英ソが窮地に陥ってからは日本に先に手を出させようとあらゆる努力を重ね共同謀議で告発されるべきはむしろ米国だった。

第5章 昭和史では分からない

- 👉 「侵略」の定義とは何か～侵略かどうかは「自ら統治できる人々か否か」で列強の判断次第だ。
- 👉 誰が法的成否を決めたか～日本による 1910 年の韓国併合は国際法から見て違法であるとしようと韓国のイニシアチブで開催され「韓国併合は違法」という韓国の学者達の主張は欧米の研究者達には全く受け入れられなかった。
- 👉 「昭和史」という不思議～16 世紀以降の世界史の半分は恥ずべき人種差別に基づいた残虐非道な欧米の侵略史と言って言い過ぎではない、昭和だけ切り取ることは 4 世紀もの欧米列強の酷薄を免罪し日本だけを貶め「東京裁判史観を認める」事に導かれる危険性を高める。
- 👉 清国は満州族の国～日本は日露戦争で多大な犠牲を払い占領した広大な南満州を寛大にもそのまま清国に返した、清国は漢族ではなく満州族が支配する国です、清国はどうしても自力ではロシアから取り戻せなかった満州を取り戻してくれた日本に感謝し南満州鉄道の譲渡を認めて日本人の居住、日本軍の常駐まで認めた、日本は南満州鉄道会社（半官半民）を作り初代総裁に後藤新平が就任、大荒野に鉄道事業だけでなく近代都市建設、炭鉱開発、製鉄業、港湾、上下水道、電力等インフラを整備した。
- 👉 排外思想を持った国民党～1911 年孫文による辛亥革命が起き翌年、清朝が倒れ中華民国が成立するも軍閥割拠、1920 年代は無政府状態で殆どの人々は極貧、孫文亡き後国民党の実権を握った蒋介石や中国共産党等は排他思想を国民にばらまいた。
- 👉 世界の共産化を図るコミンテルンの影～1930 年南満州鉄道を破綻させる計画は禁止された平行線を建設し始め乗車賃を格安にして南満州鉄道を破綻させる計画で鉄道に対する運行防害、列車強盗、駅や電線の略奪等数百件に達し、満州での武力行使を東大生の 88% が支持する調査だった、この様な空気を見て関東軍は満州事変へと突っ走った 1 万数千人の関東軍は 5 ヶ月程度で 10 倍近い張学良軍を粉砕し前満州を占領した。
- 👉 「リットン調査団」は何を語ったか～①日本軍の軍事行動は自衛行動とは云い難い ②満州国は地元住民の自発的な意思によるものではない ③満州国に日本が持つ権益は尊重されるべき ④満州には世界の他に例を見ない特殊性から単純な事件ではない ①と②は中国より、③と④は日本よりのまずまずの妥当な分析、リットン調査団の提言は満州に中国主権下の

自治政府を樹立し非武装とする・日本の特殊権益を認めるものでした。

👉 満州は中国のものか～満州は歴史的に満州族のものでした、満州に生まれた清国が北京を占領し満州人による中国支配が始まった、清国は万里の長城を大きく超えて南北モンゴル、西には東トルキスタンやチベット、東には台湾まで領土を広げた、中国が達したこの頃の版図を基準に考えているからです。

👉 次々と侵された日本の権益～張作霖は日露戦争中にロシア側のスパイとして満州軍総参謀の児玉源太郎は情報部長の福島安正と相談したうえで張作霖を逆に日本のスパイとして釈放以来福島安正に恩義を持つ張作霖は日本の為に良く尽くした。張作霖は河本大作大佐の個人的な策略で謀殺された、張作霖の跡を継いだ息子の張学良は激しい反日ですぐに蒋介石の国民党と組んだ

👉 移民受け入れとしての大地～経済的側面 1929年ウォール街の株式大暴落で米国は大不況に他国にも波及、英米仏の企業はバタバタと潰れ始めた為各々ドル圏・ポンド圏・フラン圏を設定して自由貿易はその内部に限り他国からの輸入を阻止する高関税をかけた、日本は大変困って大不況となった、1924年に米国で排日移民法が成立、明治維新以降日本の人口は急激に増加していた為国策として貧困農民層をブラジルやアメリカへの移民が奨励されていたが全面禁止となり国民・新聞もこぞって満州進出を支持した。

👉 帝国主義時代のルールとは～列強の手口は中国の混乱に乗り言いがかりをつけ武力で土地や利権を獲得それを中国に正式な条約で認めさせる強引なものだった、日本も同様な方法で山東半島の権益獲得は合法となった、中国人が日本を恨むのは当然だった。

👉 「昭和天皇の独自録」はこう語る～政府方針は強い方針を持っていたが、天皇自らの口出しが田中義一首相の退陣に追い込み、その直後の急死に懲りて強い発言をせず。

1933年国際連盟総会でリットン報告書（前掲）賛成 42、反対 1（日本）棄権 1（タイ）で可決され日本は国連から脱退した、リットン報告書を受諾して米英に満州の利権の一部を譲れば英米と協力して共産ソ連の南下に対抗できたのです。

👉 盧溝橋で何が起きたか～中国側からの攻撃にも自重、その2年前にも中国では対日テロそして7月29日には中国兵3千名が日本人居留地を襲い婦女子を含む230名を虐殺（想像を絶する残虐）更に8月9日上海で中国正規軍が日米仏英等国際共同租界の日本区域を包囲・砲撃、日本軍は4千人で約10倍の敵正規軍に対し防衛的反撃で日中戦争がはじまった8月30日のニューヨークタイムズは「中国軍が上海地域で戦争を強制したのは疑う余地がない」と書いた。

👉 得るもののない日中戦争
～上海陥落～

👉 蒋介石の怒りも当然だった～満州国の目覚ましい発展を耳にした隣の華北住民が国民政府に強い不満を有していることを利用し日本の影響下に置こうと色々画策した。

👉 黒幕は誰だったのか～南京戦の前にヒトラー主導で日独伊防共協定が結ばれドイツから中国へ、の援助は急激にしぼみ、スターリンが戦争を続行させていた黒幕だった。
～現代の価値観で歴史を判断するな～

第6章 日米戦争の語られざる本質

👉 米国の本意とは百万人近い日本軍を中国大陸に張り付けさせたのは日本・中国の意思ではなく米英ソの意志だった。

👉 米英が中国を支持した理由～①市場としての中国は世界一の巨大マーケットになる可能性を秘めた中国を日本に独り占めさせないと考えた ②ナチスドイツの台頭～ソ連を反共ドイツから守りたい ③人種～白人の独占してきた植民地権益への脅威となり始めた有色人種

なかなづく日本の勢いを抑える。

- 👉 揺れ動く米国世論～中国の世界一の宣伝力とそれに動かされる米国世論（日本が無法・無慈悲な侵略をしていると嘘八百）そして宋美齡は姉の宋慶齡と共に美貌の誉れが高く上流階級の英語もあって米国人を魅了した反日キャンペーンを展開し莫大な軍事援助の獲得に成功した。
- 👉 マニフェスト・デステニー（明白なる天命）～インデアンを殺し、黒人を奴隷化し乍ら白人種が西部開拓を推し進めることを正当化するもの、真っ先にインデアンを絶滅の為に彼らの生活の糧であるバッファローを19世紀初頭4千万頭超が世紀末には数百頭に、次にメキシコの属国というべきテキサス共和国を併合、同時にカルフォルニア、ニューメキシコ、ネバダ、アリゾナ、ユタ、コロラド等の諸州を強奪、アラスカをロシアから二束三文で買収、スペインに戦争を仕掛け中南米からスペインを駆逐し植民地化、ハワイ王国を滅ぼし併合、フィリッピン・グアム等太平洋の島々を片っ端から植民地化した、そして最後の大フロンティア中国に進出し2500人の宣教師を送り込んだ。
- 👉 親中・反日の精神～日本人よりはるかに教化し易い中国人に興味を持ち、数億の民をキリスト教徒にする壮大な夢を描いた、反共の指導者・蒋介石が改宗、そしてパール・バックの「大地」が出版されピューリッツァー賞のベストセラー、この本を通じて西洋と対等な地位を占め、中国は未開ながら巨大で・あらゆる可能性を秘めた夢の天地だった。
- 👉 宣教師というフィルター～中国で布教が実を上げていると報告しないと寄付金や支援金が増えないので宣教師たちは中国があたかもキリスト教国になりうるかのような錯覚を米国人に広め中国への援助を増加させた。
- 👉 3つの援助ルート～①香港ルート ②仏印ルート（インドシナ・ラオス・ベトナム・カンボジア）③ビルマルルート（イギリス領）日本軍は百万近い軍隊を占領地と補給線防御のために駐留させることになりソ連や米国との戦いに備えることで国力をすり減らした。
- 👉 潜行する爆撃計画～1941年7月350機の戦闘機と150機の長距離爆撃機による東京・大阪に焼夷弾をばらまく大統領の許可を得ていた。
- 👉 資源を求める日本～1941年在米資産の凍結、これは宣戦布告に準ずるもので英蘭も同調し日本は戦略物資のある南部仏印に進駐、4日後に米国は石油の対日全面禁輸を発表、英蘭が続いた、所謂 ABCD 包囲網、日本の選択肢は米国の脅しに屈服するか、意地を張って野垂れ死にするか、勝算のない米国と戦いを始める、の3つしかなかった、はじめの二つは誇り高い日本人にとって論外だった。
- 👉 「ハルノート」～日本軍の仏印インドシナばかりか中国からの撤退をも要求する事実上米国の宣戦布告ともいえるもの。
～米国の工作は実った～
- 👉 開戦に日本人は何を思ったか～日米戦争はソ連に親近感を持ったルーズベルト大統領がソ連をそしてイギリスを窮地から救い出す為、日本を戦争の選択肢しかない様に仕向けたものでした。米国の GNP は日本の12倍、鉄鋼生産17倍、石油は700倍の国だった。

第7章 大敗北と大殊勲と

- 👉 マッカーサーも認めた“日本は自衛の戦争だった”と証言
- 👉 これはドイツで明快な世界制覇の意志と共同謀議があったのと対照的。
- 👉 日本の人種差別撤廃案を退けたウイルソン大統領～第一次大戦後1919年パリ講和会議に戦勝国として参加した日本は国際連盟規約に「人種差別撤廃」を入れる様提案、賛成11対反対5になった、可能と思われたが突然議長の米国ウイルソン大統領は

「重要な課題は全会一致が必要だ」と言い出し、それまでの習慣を無視し日本案を退けた。

～破綻するイデオロギー ～ペリーの衝撃～

- 👉 横井小楠の卓見～西洋文明は覇道を目指す、日本は正道を目指すべしと。
- 👉 独立自尊を守る～私の考えはペリー来航の1853年から大東亜戦争を経て米軍占領が公式に終りサンフランシスコ講和条約の発効の1952年迄を百年戦争とした。
- 👉 南下政策をとったロシア～英米仏欄はアジアの国々とは比較にはならない程に成熟した日本の品格や文化を見て一様に仰天した。
- 👉 日露戦争の勝利にアジアは歓喜した～1891年世界一長いシベリア鉄道を建設することになって日本は震え上がった、日本は完成したらそれ迄と・・・良い感度だった、ロシアの来襲に対して文明開化で一步先じた日本が中心となり生死をかけた戦い、朝鮮をたたき起こし（日清戦争で中国に活を入れ朝鮮を中国への朝貢から解放）開国させ、兄貴分の中国に正気を取り戻させ白人の侵略に備えるのが日本の長期戦略となったアジア主義です。
1904年の日露戦争では中朝の縁の下の協力イギリスとの日英同盟等で世界最大の陸軍国ロシアを打ち破ることが出来た、この戦争は世界中が日本の敗北を確信していたのでエジプトに至るアジアの全ての国の人々が歓喜に沸いた、偉大な勝利に励まされたアジア諸国で独立運動・民族運動がこれをきっかけに始まった、世界史の大事件に入れても良い程の事件でした。
- 👉 福島安正が流した涙のわけ～日露戦争勝利の自信を胸に日本は帝国主義の仲間入りをした。
明治19年ビルマを視察した陸軍情報将校の福島安正は人々が宗主国イギリスの支配下で英国人に奴隷の如く酷使され、気ままに鞭打たれ銃殺されるのを見てアジア同胞として義憤に駆られた
- 👉 日本の宿痼とは何か～日本が欧米を説教したことはいまだにありません、最近ではTPP等欧米が決定したドグマの選択をするのみです、日本は米国の陰謀を見抜けず1921年命綱の日英同盟を破棄1927年南京事件にも拘わらず日支友好を優先し英米と共同行動をとらず以降敵視されてしまった、1933年には国際連盟を脱退、1940年海軍の猛反対にもかかわらず日独伊三国同盟を結び、米英と完全な敵対関係に入ってしまった等・・・日本外交関係のまずさが悔やまれる。
- 👉 他の列強とは違った「日本人の高貴な決意」～日本は大敵との闘いの各所で民族の精華とも云う自己犠牲、惻隠、堅忍不拔、勇猛果敢等の精神を十分に発揮した。
百年戦争の末の日本の大敗北と大殊勲～1941年には独立国がアジアでは日本・タイ・ネパールでアフリカでは3国しかなかったが百年戦争が終わる時点では併せて百ヶ国超となった、歴史家のトインビーはアジア・アフリカを統治してきた西洋人は無敵で神のような存在と信じられてきたが実際はそうでなかったことを日本人は全人類の前で証明「歴史的業績だった」と。
- 👉 日本文明の価値観とは～高校生に関する日本青少年研究所の統計データは「お金持ちは尊敬される」と思う人は米国73% 日本25%「自分の主張を貫くべきだ」と思う米国人36%日本では8%「他人の為より自分のことを考えて行動したい」は米国人40%、日本人は11%に過ぎない。
- 👉 日本が追求した平等な社会～日本人が平等を好むのは自分だけがいかに裕福になろうと周囲の人が皆貧しかったら決して幸せを感じる事が出来ないから。
- 👉 日本を日本たらしめる価値観とは～「日本人は聖徳太子以来、和を旨とする国柄です実際戦後の奇跡的経済復興も官と民の和、民と民の和、経営者と従業員の和で成し遂げました。
米国式を 無批判で取り入れたから日本特有の雇用が壊されフリーターは4百万人を超え完全失業率では3百万人を上回る事になった。
- 👉 個の尊重より国柄を～筑波大学の調査で日中韓の中学生調査では「将来に大きな希望を持っている」は日本29%韓国46%中国91%この結果はGHQと日教組による弱体化の成功といえます。
～論理や合理だけでは人間の社会は動かない～

👉 誇りを回復するために何が必要か

- ① 東京裁判の断固たる否定
- ② 日本人による日本人の自らの憲法をつくる
- ③ 自らの国を自ら守ることを決意して実行する

その上で日本の心臓ともいえる美意識と独立自尊を取り戻す

👉 苦境を克服してこそ高みに達する～現代の日本は正にその苦境に立たされています。
日本人の覚醒と奮起に期待したいものです。

(完)

(参考)

著者は作家の“新田次郎”と“藤原てい”の子息
東大政治学部数学科卒、お茶の水女子大教授等の経歴